



交通手段は船のみ！秘境の集落「船浮」を訪問し記入会開催

7日は、西表島の船浮（ふなうき）地区です。

西表島の他の集落との間には道路が通じておらず、同じ島内であっても船でしか渡れない地区で、人口は45人、40歳以上の方が31人です。

7時半からのアンケート記入会には、20人（家族預けを含む）が参加してくださいました。

船浮地区は、戦前炭坑があり、朝鮮半島からの徴用労働者の使役や海軍の秘密基地などの歴史があります。

記入会後は、池田公民館長さんの家（民宿「ふなうき荘」を経営）で、この地域の歴史や自然についてたくさんのお話を伺いました。特に、池田米蔵さんのイリオモテヤマネコのビデオ撮影に成功したエピソードとその映像は衝撃的でした！

こんな素敵な地域に最期まで住み続けるためにどんな福祉が必要か、一緒に考えていきたいと思います。



フェリー乗り場から見た船浮地区



船浮公民会での記入会



船浮の自然や歴史を学べる資料館
戦時中の「船浮要塞」の全貌や過酷な西表炭坑の歴史を知ることができます。



感動的な美しさの「イダの浜」

ぱいぬ島共生意識・要求アンケート調査に参加して・・・



11月6～9日までボランティア参加の平岡賢明(まさあき)さん
(けいはん医療生協施設介護付有料老人ホームさつき室長・介護福祉士)

今回私が参加した理由は、どのように地域要求をくみ取り、行政と一緒に実践しているのかを肌で感じながら学びたかったからです。

「竹富島」「西表島船浮地区」のアンケート調査を手伝いながら、そこに住んでおられる方との交流で、医療や介護の要求だけでなく、その土地の歴史や、まちづくりの問題をどのように取り組んでいくのか等、何うことが出来ました。

そこで感じたのはその土地に住んでいる人が、自分達のまちについて考えて行動して行政と共に問題を解決していく事の重要性です。

あと、泡盛がとてもおいしい事と、島の皆さんがとても温かく笑顔でむかえてくれたことが印象的でした。